

院長就任のご挨拶

鹿児島医療センター院長：田中 康博



新任のご挨拶を申し上げます。

平成29年7月より院長を拝命いたしました田中康博と申します。独立行政法人国立病院機構に移行し5代目の院長になります。鹿児島医療センターは明治6年(1873年)に西郷隆盛(せごどん)らが設立した私学校跡地、さらに旧鹿児島大学付属病院跡地に立地しております。西南の役には激戦地となり今でも石垣には弾痕が残っています。否応なしに鹿児島の歴史と伝統を感じずにはられません。鹿児島の特別な場所で医療に携われていることを意識しつつ、先人に恥じぬ医療を目指すとともに、鹿児島の医療を支える柱の一つとして、鹿児島の皆様の期待に応え、誰もが納得できる医療を提供したいと思っています。

三つの方針をお示しします。

1) 規範となる医療

医療人としては当然の事ですが、常に医療の原点を大事にし、規範となる医療を目指します。

2) 高度医療、先進医療の提供

「役にたつ病院」は当然。常に先行し、住民や医療機関の皆様へ新しい高度医療を提供します。

3) 期待に応え満足度100%の医療

顧客である患者さん、各医療機関、救急隊(救急救命士)の方々などの期待に応え、満足できる医療を目指します。

平成29年5月に鹿児島通信病院との医療機能移転が合意に至り、来春(平成30年4月)は370床から410床の病院に成る予定です。鹿児島の医療の真の中核として益々責任重大です。今まで不十分であった部門を充実し、新たな医療提供をすべく準備に入りたいと思っています。

当院は、循環器・脳卒中・がん専門施設として高度医療、急性期医療、先端医療を提供するために常に探求し努力するとともに、あらゆる医学教育に携わり、鹿児島県の医療向上のために精進していく所存です。その事が当院の使命と考えています。皆様へ選ばれる病院を目指しますので今後とも患者ご紹介のほど宜しくお願いいたします。

院長退任のご挨拶

花田 修一



この6月末をもって院長職を退任することとなりました。平成25年4月から定年延長2年3ヶ月を含む4年あまり、十分とは言えませんでした。多くの方々のご支援、ご協力をいただき院長としての職務を終えることができました。皆様に心から感謝申し上げます。

振り返りますと当院の循環器・脳卒中・がん診療のさらなる高度医療化を目指して、平成25年3月にまとめられた鹿児島県保健医療計画にある高度医療施設を目指すべく取り組んでまいりました。そのため、鹿児島医療センター運営協議会を再開しました。池田 琢哉鹿児島県医師会会長に運営協議会会長に就任いただき、熊本 一郎鹿児島大学病院長（当時）、鹿島 友義鹿児島市医師会会長（2回目から猪鹿倉 忠彦現会長）、松田 典久鹿児島県保健福祉部長（当時）、田中 康博指宿医療センター院長のほか、有識者として有川 賢司元南日本新聞社常務、上野 英城上野法律事務所弁護士、西 眞理子鹿児島デザイン協会副理事長（現理事長）に参加いただき、鹿児島医療センターの将来構想につきましてご検討いただきました。平成26年2月14日の第3回運営協議会におきまして、鹿児島県保健医療計画に記載された高度医療施設即ち「既存の医療機関の再編・集約により医療機能の強化を図ることとし、脳分野や心臓分野などの高度医療を提供するとともに専門医育成機能を持ち、総合的な診療科を有する一定規模の施設」を目指しなさいとの提言をいただきました。高度医療施設を目指すためには既存の医療機関との再編・集約が必要であり、いくつかのお話がありました。最終的に鹿児島通信病院との話し合いを進めることとなりました。鹿児島通信病院は日本郵政の病院、鹿児島医療センターは国立病院機構の病院であることから、それぞれの本社・本部の理解・承認がなければ進まなかったこと、また国立病院機構の病院の増床は、最終的に厚生労働省の許可があることなど幾つかのハードルがありました。この間、機構本部の理解のもとに病院機能の整備にも努力する一方、鹿児島大学病院、鹿児島県、鹿児島県医師会、鹿児島市医師会の先生方のご指導をいただきながら、平成29年3月までに、国立病院機構本部、日本郵政本社の理解・承認をいただくことができました。また、厚生労働省からも鹿児島医療センター370床、鹿児島通信病院50床計420床のうち、410床での増床承認をいただきました。鹿児島通信病院診療機能を平成30年4月1日を目標として鹿児島医療センターに移転することについて、鹿児島大学関連教室、医師会、鹿児島県への説明も5月末に終了することができましたので、国立病院機構本部から、6月末での退任許可をいただきました。この間、私の努力不足に加え、病床機能報告制度や地域医療構想策定など医療界は変革の時代を迎えていることもあって、時間ばかりが経過してしまいましたことを、お詫びいたします。今後、鹿児島通信病院との間で、診療機能移転への具体的作業が始まることとなります。後任の田中 康博院長をはじめ鹿児島医療センター職員に対し今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます院長退任のご挨拶といたします。

第15回 脳卒中市民講座



去る5月28日（日）に、鹿児島県民交流センターにおいて「みんなで学ぼう脳卒中！」と題した脳卒中市民講座を開催いたしました。例年脳卒中予防週間のこの時期に、脳卒中の発症予防や死亡率低下、後遺症軽減などにつながることを期待して開催しております。本年も（公社）日本脳卒中協会、鹿児島県、鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、田辺三菱製薬株式会社、第一三共株式会社の共催で行い、他にも多くの機関にご後援、ご支援を頂きました。

まず昨年に引き続き、開場から講演会までの時間を利用し、当院スタッフ（薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーションスタッフ）による脳卒中相談コーナーを会場の一部に設置し、市民の方の相談を直接受けさせていただきました。

講演会では花田 修一院長の開会挨拶に続いて、第一部は「脳卒中の最新治療」と題し、脳卒中の分類や検査、一般的治療、症状、発症時の対応などについて脇田 政之（脳血管内科医長）が、t-PA静注療法や血栓回収療法などの超急性期の最新治療の内容や有効性などについて松岡 秀樹（脳卒中センター長）が、さらにも膜下出血の症状や治療法などについて谷口 歩（脳神経外科医長）が講演を行いました。このセッションでは、症例の実例を示しつつ講演したことにより、参加者の方々にはより実感を持って学んで頂きました。続いて第二部では、花田 道代（栄養管理室長）及び栄養管理室スタッフによる、脳卒中予防のための食事療法、さらに木村 英志（リハビリテーション科理学療法士長）による脳梗塞の後遺症悪化予防や筋力増進のために家庭で出来る運動療法について講演を行いました。栄養については特に減塩やカロリー制限のための具体的なレシピなどを一部会場参加型のクイズも交えて紹介し、また運動療法については動画を用いつつ参加者の方々にも椅子に腰掛けたままで出来る運動を実際に行っていたいただき、いずれも大変興味を持っていただきました。第三部では、本年も鹿児島県PRキャラクターの「ぐりぶー」と「さくら」にも登場してもらい、脳卒中予防を推進する商品として家庭用自動血圧計や体組成計、電子塩分計、歩数計を参加者へプレゼントする抽選会を行いました。最後は木佐貫涼子看護部長が閉会の挨拶で締めくくりました。本年も幅広い年齢層の450名ほどの方に参加して頂きました。事後のアンケートでは、「とてもよかった」「勉強になった」とのお声を多く頂きました。ただ例年繰り返し参加されている方が多いことから、これまで健康に興味が無く参加していなかったの方々にもさらに情報提供をしていけるよう、来年度以降さらに広報に工夫をする必要性を感じております。今後も引き続き開催していく予定ですので、何卒よろしくお願い致します。

最後に、今回も無事に開催することが出来たのは、院内各部署および共催、後援各所や開催にご理解頂きました連携先ご施設のご協力の賜とっております。末筆ながらこの場をお借りして皆様に厚く御礼申し上げます。

（文責：脳卒中センター長・脳血管内科医長 松岡 秀樹）



新任紹介



心臓血管外科
川津 祥和

鹿児島大学病院より異動して参りました。日々飄飄と職務に勤しんでおりますが、患者さんの為に全力で治療に当たりたいと思います。宜しくお願いいたします。



放射線科
神崎 史子

鹿児島市立病院より赴任しました神崎史子と申します。

これまで経験の少なかった循環器症例をはじめ、様々な分野の画像検査を日々読影させて頂いております。何がこの患者さんの生活にとって最も大切か、臨床の先生方の診療にとって重要かを常に考えながら、できる限り情報を up to date して日々の診療に携わらせて頂くことができたらと思っております。

臨床の先生方の考えていらっしゃることや、その後の患者様の経過などを知るこなしにより検査をすることはできないかと痛感する毎日です。

至らない点が多々あると思いますが、何卒ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



第7回 救急医療懇談会

平成29年6月13日（火）、梅雨の蒸し暑い天候の中、第7回救急医療懇談会が当院大会議室にて開催されました。

この会は、「顔の見える救急医療」をコンセプトに鹿児島市消防局と合同で開催され、今回は救急隊より30名、医師・看護師など当院職員33名に参加していただき、後半では立ち見が出るほど盛況でした。

最初に症例報告2例。1例目は脳血管内科の松岡脳卒中センター長による「急性期脳梗塞に対する血栓回収療法の実践と課題」。実際の救急搬送受入をビデオも用いて、時系列で分かりやすく説明して頂きました。早期の搬送のおかげで数日のうちに歩行出来るようになった症例です。2例目は第1循環器内科の片岡医長より「急性冠症候群と鑑別が必要な疾患の1例 一大動脈弁狭窄症そしてその新しい治療」と題し、心電図の見方や当院で新しく実施するTAVIについて、わかりやすく説明して頂きました。

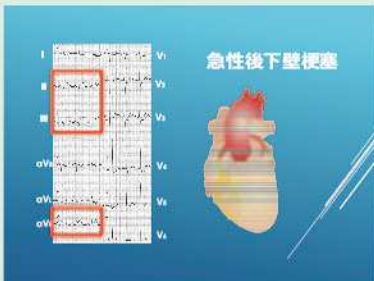
最後は鹿児島市消防局中村救急係長より鹿児島市の救急の現状をご報告いただきました。病院名は隠されていましたが、何となく分かるような、分からないような、ユニークな発表で会場の笑いを誘っていました。また、活発な討論もあり、救急隊の方からホットラインに連絡すべきか迷う事例などについて質問がありました。

医療機関と救急隊とが立場は違っても、救急医療の発展を願い、意見を交換出来る有意義な場であり、今後も継続していかなければと強く思える会でした。

（文責：経営企画室長 大坪 雅彦）

第7回救急医療懇談会

1. 日 時 平成29年6月13日(火)
18時～19時
2. 場 所 鹿児島医療センター大会議室
3. 内 容
 - 1) 症例検討2例
 - ①急性期脳梗塞に対する血栓回収療法の実践と課題
…松岡 秀樹
【脳血管内科】
 - ②急性冠症候群と鑑別が必要な疾患の1例
—大動脈弁狭窄症そしてその新しい治療—
…片岡 首郎
【第1循環器内科】
 - 2) 救急隊からの報告



■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター**（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・迫田・中田・吉留・菊永・櫻木・田辺

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻・久保・杉本

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

